

ヘリコバクター・ピロリ菌の感染率と対策の現状について

○松井敏光、遠藤光恵、桜沢美土里、三浦桐子、河西祐子、渡辺和幸

【目的】

①近年、胃がん等の上部消化管における疾病の罹患に対しヘリコバクター・ピロリ菌(H.Pylori 菌)の関連性が報告されている。当施設の胃がん検診受診者において H.Pylori 菌の感染に対する検査(感染率)の実施はどの程度か、現状を把握するとともに対策(除菌等)がどの程度行われているかの把握を兼ねて研究を行う。

②昨年度の結果を踏まえ、検診等で受診する機会のない年齢層に関して、アンケート調査を行い、現状を把握するとともに対策を検討する。

【対象および期間】

- ①当施設における職域健診受診者
4,668 人(内、胃部 X 線検査受診者)
- ②当施設における職域健診受診者
1,464 人(20~30 代の若年者および申込者)

- 期間：①平成 28 年 4 月~平成 29 年 3 月
②平成 29 年 4 月~平成 30 年 3 月

【方法】

①データ蓄積

胃部 X 線検診録の問診事項およびアンケート用紙を使用し、次の項目に対する回答の集計を行った。

- (1)ピロリ菌検査をしたことがあるかの有無
- (2)ピロリ菌検査の結果(陰性・陽性の割合)
- (3) 除菌の有無および施行回数
- (4) 除菌の成功率

②評価

- (1)ヘリコバクター・ピロリ菌(H.Pylori)菌の感染率
- (2)ヘリコバクター・ピロリ菌(H.Pylori)菌の除菌率

【結果および考察】

①当施設における職域健診受診者（内、胃部 X 線検査受診者）のピロリ菌検査実施者数が全体の 1～2 割程度とまだまだ周知されていない状況があった。正直なところもう少し数字があがって欲しいと期待もあったが、これから色々な場面で取り上げられて行けば上昇していくであろうと考える。当施設に於いても受診勧奨等を積極的に行い、検査受診率および除菌率の上昇に結びつくことに期待する。

ピロリ菌検査実施者に対する陽性率が 6～7 割と、ここまで高い数値を示すことには驚きがあった。除菌を施行している方も多くいたが、陽性という結果を聞きながら除菌をしない人もいることが分かった。除菌の勧奨をするとともに結果をきちんと聞き、除菌に成功した安心感を持っていただくことの大事さも伝えることが出来ればと考える。今後は、所見の有無に対してピロリ菌感染率がどのように関連しているのか、検討していきたい。

②平成 30 年度、若年層(30 歳未満)の方に、ピロリ菌についての調査を行った。ピロリ菌検査を受けたことがある方は 3%程度で、アンケート調査結果と検査結果を合わせると 20 代の 1 割の方がピロリ菌陽性となった。

【まとめ】

①若年層（30 歳未満）に関しては、対象者がほぼ 0%に近い状態にあったため、調査は未知数の状況で終了した。次年度、若年層（20 代～）に対するピロリ菌検査の勧奨を施行する予定でいる。現在では情報が無いため今回と同様のアンケートを行い、情報収集に努めることとする。ピロリ菌感染の有無や判定結果を知ることによって上部消化管の疾病罹患率の低下に繋げることが出来ると考える。

②ピロリ菌の除菌が成功したとはいえ罹患する可能性が 0%になるわけではない。その後も逐年に胃がん検診を受診していただくよう啓蒙していくことも必要と考える。若年層に対して上部消化管疾病の罹患率低下の対策として検査を受ける機会を増やすことも対策の一つと考えます。